

大田市新不燃物処分場建設計画への抗議文

平成 22 年 8 月 28 日の新聞によると、仁摩町宅野に計画されている新不燃物処分場に関して、市は近く実施設計に入ると報道されていました。

未だ同意していない地権者が 2 名いるにも関わらず、この 2 名の所有する土地をはずし、設計変更をしてでも建設に踏み切るという強硬姿勢は、この建設計画に不安を持つ地権者や地元住民をまったく無視する行為であり、強く抗議します。

大田市がこれまで行ってきた「住民説明会」は、「宅野への建設ありき」の計画説明と施設の安全性の強調に終始する一方的な内容であり、住民の意見をまともに聞こうというような姿勢は一貫して見受けられませんでした。また、当の地権者には、すべてが決定されたものとして、有無を言わさない用地買収の話として一番最後に戸別訪問をされました。このような進め方では、地元住民や地権者の本当の納得が得られるわけがありません。

「市は、『真摯に、誠意をもって対応する』と言われるが、まったく誠意は感じられない。」というのがこの計画に反対する住民、地権者の実感です。

「宅野にごみ処分場を造ることは、将来にわたり反対です。たとえ何があろうと、残る家族もみな反対ということです。」と地権者はさらに強く反対の意思表示をしています。

「なぜ宅野ありきなのか」「なぜこんな巨大な処分場が必要なのか」「なぜ住民との対話ができないのか」。こうした基本的なところから始まり、住民が納得できるような発言や態度がまったく示されないままに今日に至っています。

もし、市が反対地権者の意向を無視して強行に着工に踏み切った場合、その環境変化による立木の倒木や耕作地への計り知れない影響など、また、現地に向かう作業路の確保や、通行の安全性など、残された地権者はたいへんな危惧を抱かれています。

「宅野の自然と生活環境を守る会」は、こうした地元住民の声をきちんと市に伝えるとともに、将来にわたり禍根を残すような建設計画に関しては、今後も反対の意志を表明していく所存です。

平成 22 年 8 月 30 日

竹腰創一大田市市長ならびに大田市議会議員 各位

宅野の自然と生活環境を守る会 代表 山上光俊

地権者有志